みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140 炭鉱 474・528
※責任者＝文教部長 川畑信子

勝利を目の前に
私達の力を見せる時だ

炭労は屈辱的なあつせん案を蹴つて闘いに立ちあがりました。首切りを認めるあつせん案をどうして受け入れられましょう。敵は狼狽して最後の力をふりしぼつて、私たちに攻撃をかけてくるでしょう。すでに三井のお抱えとなつた警察は、めくらめつぽうに私たちの頭上にコンボウの雨をふらせてきています。これは、私たち労働者の力をおそれた敵のアガキなのです。もう一押しです。団結を守り固め、働くものの、ほんとうの底力をいまこそ彼らにハツキリみせてやりましよう。

最後まで支持します

三池労組　主婦の皆さん

連日懸命に闘つておられることに心から拍手を送ります。

安保の闘いが激しくなつて全国民が本当の安保条約の内容を知り安保ハキの闘いに参加することを恐れる政府・独占資本家たちは、安保条約と直接・密接な関係をもつ、三池の闘いに集中攻撃をかけて来ています。そのことをはつきり理解されて、自分たちの生活の問題と政治闘争を結びつけて、闘つていられるところは、全国でもそんなに多くありません。

私たちも、三池労組の方たちの闘いの内容を知り、その闘いの経過を通じて、今までより一層政治問題と経済、それから今の社会構造をしつかりと認識するようになりました。全国的にみて、いまの婦人の力は大きくありません。私たちの職場でも合理化がどんどん進められ、そのしわよせが全部婦人労働者にくるのです。

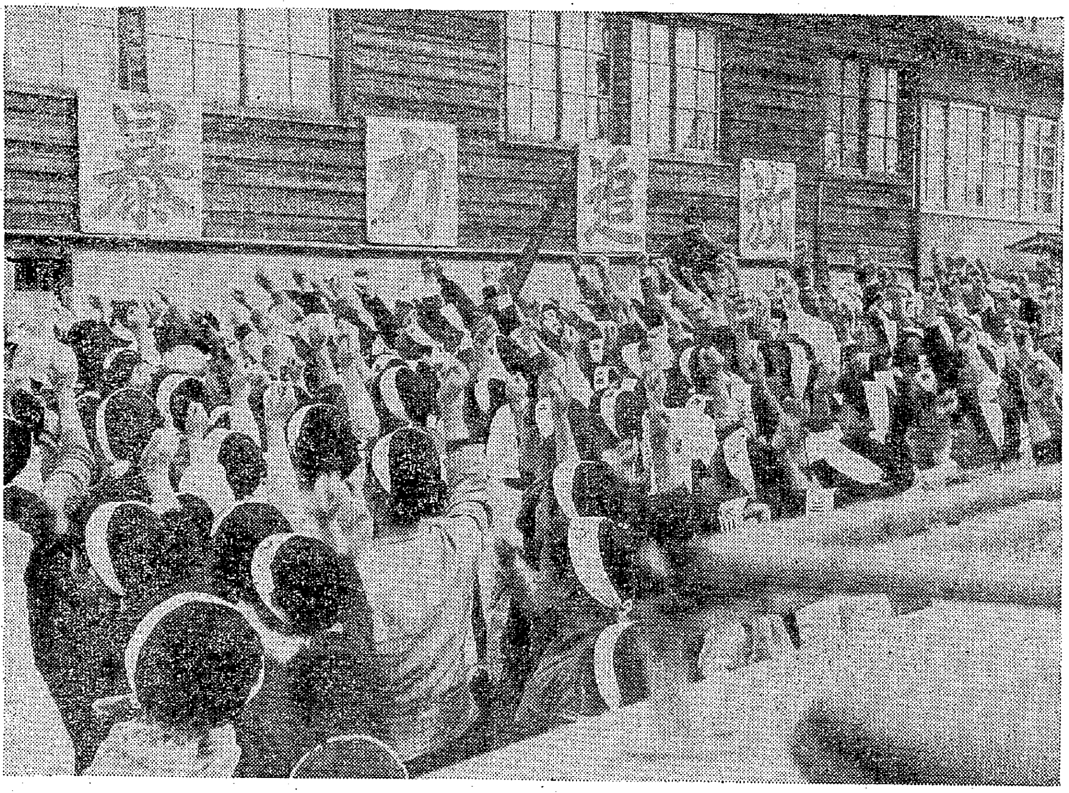
そして、十年さきには、現在いる婦人労働者が実質的に全部いらなくなるのです。だから、合理化闘争が全国各地で行われていますが、婦人自身がもつと目ざめる必要を痛切に感じるのです。そんな中にいて、三池・王子製紙、その他の労組の主婦の会の方たちの、男子労働者に負けない闘いを聞くと、どうしてそんなに団結して闘うことが出来るのか知りたくてたまりません。

三池の労働者がいまの闘いに勝つ事によつて、安保の闘いも私たちの勝利に終ると思つています。この闘いを支える力となつている主婦の方たち、苦しい闘いですが最後までがんばつて下さい。私たち民主青年同盟神戸地区の者は、全員神戸市内の各所で三池労組支援の街頭カンパと真相をつたえるビラをくばつております。

それと同時に、職場の中から現地に代表団を一名送り、真相を知ることが出来るように集会を持ちたいと考えております。炭労大会も三鉱連の退場などで変な方向に行きかけていますが、私たちは最後まで貴方たちを支持しています

がんばつて下さい。

神戸市全電通　千本　治子


「組合員の即時釈放」を警察に抗議する主婦たち(10日)

指名解雇は死刑です

はげしい闘いを粘りづよく支えられている三池の主婦協議会のみなさんへ、大峰炭婦協は心からの激励と教訓のなかで僅少ではございますが、カンパをおくります。

首切りの嵐と闘い、ゴロツキと三井の人殺し会社の暴圧に対してひるまない主婦協議会のガツチリした働きが、今日の三池を支えているといつてもさしつかえないと思います。

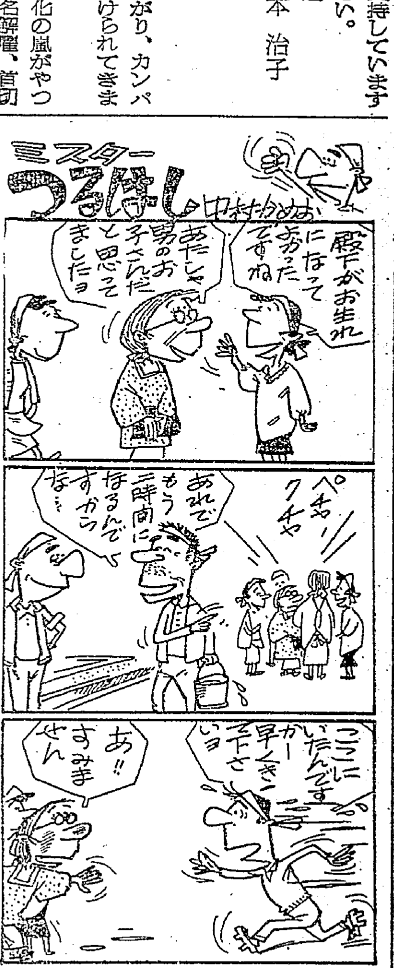
この働きによる激励へのさけびは全国的なものとなつており、また大峰炭婦協は三井資本の手先、ゴロツキと官憲のために虐殺された故久保清さんの死を無駄にするなとのさけびは、主婦のなかから合言葉としてわきあがり、カンパ運動が今日までつづけられてきました。

古河大峰にも合理化の嵐がやつてきております。指名解雇、首切りは絶対許してはなりません。それは働く者にとつて死刑であるからです。子供のためにも、年老いた両親のためにも、夫の、兄の死刑は許すことはできません。

大峰炭婦協は〃故久保清さんの死を無駄にしない〃と心から怒りと憤りを、このカンパに托します

団結万才！ ー首切り、それは死刑ーを許してはなりませんと、大峰炭婦協はみなさんに誓います

古河大峰炭婦協　会長　作村はるみ


ミスター
つるぼし
中村かめお
殿下がお生れになってよかったですね
あたしゃ男のお子さんだと思ってましたョ
ペチャクチャ
あれでもう二時間になるんですからなァ…
ここにいたんですかー早くきて下さいョ
あ!!すみません
生まれそうなんですョ!!
のんきなさんばさんだ!!

私たちも仲間です

皆さま方が闘いに入いられて七カ月、ストに入られて百日余りになります。この長い激しい闘いに全身をうち込んでおられる皆さまに、私たちはただ感激するのみでございます。

私たちもかつて、共済組合ができるまで三カ月間、死にたくなるような苦しみを味わいました。

そのころ、私たちにはまだ仲間がおりませんでした。いや、仲間があることを知らなかつたのです。多くの働く仲間があることを、私たちのその一人であることを知つたのです。そしていま皆さまが働く仲間の最前列に立つて闘つておられることも、皆さま方の闘いがそく私たちの闘いであること、皆さま方が勝利を得られることは、そく私たち働く仲間の勝利であることもいま知つたのでございます

私たちは、まだ生れて間もない無知なものばかりです。でも、私たちは働く仲間と手を取り合つて幸せになるために、明日の社会をつくるために、闘わなければいけないことも知つたのです。皆さまきつとつらい、苦しい日々を送つておられることでしょうが、もうひと踏張り頑張つて下さい。私たちも微力ながら、応援させていただきます。

皆さま方の闘いが、必ず勝利を勝ちとることを確く信じ、なお一そうの御健闘を祈ります。

福岡県タクシー運転車共済組合福岡支部
主婦会

五月をむかえる
くぼた・とおる

五月がもうすぐくる
ぼくは五月という季節に愛着をもつ
いきいきとした顔
鮮やかなみどり
それらすべてがいちどきに咲きほこる
とくに　五月一日を。

一九六〇年のその日は
三月の虐殺をのりこえてむかえる
シヤウプビル　馬山
三池
ぼくらにとつて忘れられない日になる
戦争のかげを消せ
安保条約をつぶせ
独立と平和を

ぼくらののぞみと
世界中の労働者ののぞみがひとつになり
巨大な流れとなるその日が
もうすぐ　くる。

★作者は詩人・紙パ労連書記・作品に組曲「砂川」等がある

細心の警戒を

「三池の人が殺されたぞ！」という夫の声に飛びおきました。やられた！と思い、一しゆん頭がクラクラとしました。

私は、王子製紙労組に籍をおき一昨年の王子闘争をこの目で見、体験してきました。その折には炭鉱の仲間には言い知れぬ援助をうけたのです。

当時思いもかけぬ仲間の裏切りに合い、想像をこえる会社のやり口に、いかりの血をもやした日がありました。会社は決して自分の手を汚ごさずに、私たちを血まつりに上げることを知つています。それは、仲間どうしをあい争わせることです。暴力団を使うことです。そのやり口は、全く巧妙なので人殺しの下手人が会社であることを多くの人の目からそらし、かくすことが出来ます。

私は、久保さんの死をむだにすることなく、炭労が世論にアッピールするために、今すぐ抗議ストに二十四時間に入ることを強く要請します。

みなさん相手はどんなおそろしいことも平気でする人たちです。どうかいかりのあまり、彼らの思うツボにはまらないように細心の警戒をおねがいします。また、第二に走つた者、または動揺している人には、いかりではなくて心の底からの説得「不幸になる道へ走らないでくれ」という説得をもつて当つて下さい。私共のにがい経験が生かされることを祈ります。

私たちの尊い犠牲者、久保さんへの冥福を心からお祈りいたします。

王子製紙労働組合　小林久子

うたいつがれて四十年
メーデー歌の移り変り

○…日本最初のメーデーが行われたのは一九二〇年（大正九年）ですが、この時まだメーデー歌といえるものはなく、翌年の第二回メーデーで歌われた「桜は散りて賤人らの、栄華の夢のさめしとき…」（赤松克麿作詞）という歌がメーデー歌のはしりといわれています。古めかしい文句の中にも資本家へ憎しみと闘いの確信がこめられ、激しい弾圧の嵐にも負けず胸を張つて歌う先駆たちの姿が目に浮ぶようです。このほかにこの頃は「あゝ玉杯」のふしで歌う「あゝ革命は近づけり」や「どんらんあくなき資本主義」というような革命歌がさかんに歌われていました。

○…一九二二年第三回メーデーを迎える準備の中で「聞け万国の労働者」がつくられました。

○…その後昭和に入り「赤旗の歌」や「インター」が歌われるようになり、警視庁が許可した歌以外のものを歌えば直ちに検束されるという暴圧に抗しながら歌いつづけられ、十年間にわたる〃冬の時代〃を経て、やがて日本労働運動が激しく高揚する戦後へ歌いつがれてきたのです。

○…一九四八年（昭和二十三年）第十九回メーデーのときメーデー歌が公募され、「世界をつなげ花の輪に」「町から村から工場から」の二つが当選、翌四九年には「晴れた五月」がつくられました。五二年（二十三回）の血のメーデーの頃からひろがつた「民族独立行動隊」は五三年（二十四回）にメーデー歌に選定され、五四年（二十五回）には「平和を守れ」「祖国の山河に」がメーデー歌となりました。五四年三月のビキニ事件をきつかけに枯野の火のようにひろがつた原水爆禁止運動は「原爆許すまじ」をうみ出し、日中友好を歌つた「東京ー北京」とともに五五年のメーデーにひろく歌われ、五六、七年には「しあわせの歌」が登場、働くものの願いをこめていまも愛唱されています。

メーデーの家族部隊
河崎　なつ

ことしも第三十一回のメーデーが近づいた。去年は大雨に、しよげかえつたが、ことしは晴天でとのぞむとともに、私はこんなことも希つている。

解放後の中国の躍進ぶり、わけても「人民公社」での人民たちの良く、多く、速くと生産へのいさみよう。それはまつたく、家ぐるみ、村ぐるみ、町ぐるみ、国ぐるみの、いさみであるのには頭が下る。百年来の抗英、抗日、抗米の闘いに鍛えられた、鉄の団結である。

日本でも日鋼室蘭や、苫小牧王子製紙の闘いの勝利のかげに、このぐるみ、いさみの力があつたことはいなめない。

年年のメーデーにも、ますます職場ぐるみ参加するばかりか、だんだん、子ども連れ、妻子づれと家ぐるみの姿も交りだした。まだ数が少いので、テレ気味にみえるが、だんだんふえてゆき、家族部隊として、どうどうとしかも楽しげな行進もあつてよいのではないか。

風薫る五月の空に、鯉のぼりをあげて、わが子の未来を祈つた、封建時代の親たちの個々の行動ではなく、いまは、職場ぐるみ、家ぐるみのメーデー大行進が、国内のいたる所で、世界のいたる所で嬉々として、しかも、要求を高くかかげて、繰り広げられる、大行進の祭典を、わたしは称えたい。

ことに今日、平和共存を話し合おうとしている世界の声に耳をふさいで、安保を改定して、日米軍事同盟を一そう強めようとする日本政府の反動をハネ返すためにも、ことしのメーデーは、職場ぐるみ家ぐるみに、大きく、一歩をすすめたいと希われる。

幸いその日は日曜日でもあるので、子どもを連れて、お母さん方もどしどしメーデーの大行進に参加しようではありませんか。行動はまた次の行動を生むものです。

（かわさき・なつさんは日本母親大会実行委員長）